

附属資料

年月日	経過	内容
平成 27 年 8 月	市政モニターへのユニバーサルデザインアンケート調査	
平成 28 年 4 月 25 日	部長会議	ユニバーサルデザイン推進プラン策定について
6 月 3 日	第 1 回会津若松市ユニバーサルデザイン推進チーム会議	ユニバーサルデザイン及びプラン策定についての説明
6 月 21 日	第 1 回市民ワークショップ	オリエンテーション ・開催趣旨説明 ・ユニバーサルデザインについて ・会津若松市ユニバーサルデザイン推進プランについて
6 月 28 日	第 2 回市民ワークショップ	分野ごとの意見交換
7 月 12 日	第 3 回市民ワークショップ	分野ごとの意見交換
7 月 25 日 ～8 月 19 日	市政モニターへのユニバーサルデザインアンケート調査	
7 月 26 日	第 4 回市民ワークショップ	分野ごとの意見交換
7 月 30 日	第 5 回市民ワークショップ	まちなかのユニバーサルデザイン見学
8 月 9 日	第 6 回市民ワークショップ	これまでの振り返り、各主体に期待すること、まとめ
9 月 29 日	企画副参事会議	ユニバーサルデザイン推進プラン策定に関する中間報告
11 月 17 日	企画副参事会議	(仮称) 第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン(素案)について
11 月 22 日	庁議	(仮称) 第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン(素案)について
12 月 12 日	総務委員会協議会	(仮称) 第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン(素案)について
12 月 26 日 ～ 平成 29 年 1 月 26 日	パブリック・コメントの実施	(仮称) 第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン(素案)について
平成 29 年 2 月 17 日	計画決定	第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン成案について

附属資料 市民ワークショップにおける意見

○ワークショップ参加者

公募（平成28年5月2日から平成28年6月7日）による参加応募者 14名

○講師・ファシリテーター

特定非営利活動法人 会津NPOセンター内
会津ユニバーサルデザインツアーセンター
プロジェクトリーダー 二瓶 郁 氏

○開催概要

合計6回のオリエンテーション及びワークショップ、まちなか見学を開催しました。ワークショップでは、「会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン（平成24年度改訂版）」における分野別取組の項目ごとにAグループ、Bグループの2グループに分かれ、御意見をいただきました。

回	開催月日	内 容	
第1回	6月21日	オリエンテーション	○開催趣旨説明 ○ユニバーサルデザインについて ○会津若松市ユニバーサルデザイン推進プランについて
第2回	6月28日	ワークショップ	分野ごとに「問題点」「改善案」について意見交換 「意識づくり」 「社会・環境づくり」 「まちづくり」 「情報・サービス」 「もの（製品）づくり」
第3回	7月12日		
第4回	7月26日		
第5回	7月30日	まちなか見学	○まちなかにあるユニバーサルデザインとその取組
第6回	8月9日	ワークショップ	○これまでの振り返り ○市、市民活動団体や事業所、市民それぞれに期待することについての意見発表 ○まとめ

【ワークショップの様子】



ユニバーサルデザインに対するたくさんのご意見をいただきました。



〈Aグループ〉 「意識づくり」

問題点

言葉を知る

- ユニバーサルデザインの認知度
- ユニバーサルデザインという言葉がそもそもわかりにくい
- 大人の人で知っている人がまだ少ない

意味を知る

- 日ごろの生活でUDが話題になったり考えたりする機会が以外に少ない
- ユニバーサルデザインについて学ぶ場所、指導者
- 親教師 → 子生徒 ↑
ここが大事では？
- 誰が誰に意識づけをするのか
- 市民にどのような手段・方法で知ってもらえるか
- 周りの人や社会がどう工夫しているか知る機会が少ない
- 町内会を通しての勉強会を行なう学習を（出前講座）
- 市民側も行政も文化的生活を基本とします。それが欠如しているのでは？
- 全員がユニバーサルデザインを意識しなきゃダメ？

方法を知る、実行する

- 他の人への関心がやすい
- ルールを守らない
- 気づかないうちに広まっている方がいいのかも上から言われたくない
- 生活のゆたかさの実態経済の活性化が具体的に実行行政にしてほしい。

結果を知る、活用する

- 情報開示少ない
- 人は財産情報共有
- 政策の不消化やりっぱなしの事業助成金の使い方問題あり

改善案

- 参考資料を配る講演会をする（出前講義）
- まちなかでUDの表示を増やすポスター等
- UDの意味が知られるようなイベントを行なう
- HP・広報誌個人だけでなく、学校・企業単位の活動を
- 公共のトイレなどユニバーサルデザインを使用している所に表示をする
- 親子で学ぶユニバーサルデザイン教室などお勉強にしない
- 子ども達から知らしめ親が理解する
- 多くの人の目に止まる様に回覧板などを用意してみる

「すべての人」にやさしいデザインとする

すべての人のため

- ・家庭でできるUD
- ・町内でできるUD
- ・会社でできるUD
- というように事例をあげてわかりやすく
- ユニバーサルデザイン賞みたいのを設けて広く市民より募集して（アイデア）広報・広まる
- 概念でない具体的な方法の紹介
- 町内会を活発させ伝言板に書いてまわす

いろいろのちねん意見聞き

- 各分野で取り組んでいる人の異業種交流会の開催
- 企業・団体等のホームページの整備、相互リンクをお願いする
- 現状を確認
- 数字だけではない具体的なフィードバック ↑
ここが便利になった
ここが安全になった
- 小児科、消防署から事故から例を知り改善する例：ドアに指はさまった
- 随時改訂していく

〈Bグループ〉 「意識づくり」

問題点

啓発方法

啓発の方法がユニバーサルデザインになっているのか
ホームページ
イベントの開催

現状把握

現状をどうとらえるか
データ化されているか

不便に感じた人の声を聞く機会
声を出せる場所があるといい。

言葉は知っていても意味を知らない人がまだ多い

学びの場

自ら進ん学習する

「ユニバーサルデザイン」講座
や研修会の開催

学びの場をもうける

マナーの教育
(相手を思いやる)

重要性は分かっているけど個人としてどうして行けばよいか分からない
具体的にどうなれば

先進地の視察

工夫されている地域(先進地)を視察する

幼稚園や学校などで子ども達がUDにふれあう場

改善案

多様な価値観や個性を受け入れる(思いやり)

こころのUD
誰もが取り組めるものだという
ことを広めていく

ユニバーサルデザインについて
知らせる工夫
・市政だより
・HP

すべての人をいしきする

気配り思いやりを大切にする

現状
広報活動
回覧等を利用

相手に対する理解、思いやりの心を育む

市職員への意識啓発

取り組む団体や職場において活動支援する

市民へのアンケート調査
(UD認知度)

市民の意識調査
・小学生
・中学生
・高校生
・一般、老人

ユニバーサルデザインの認知度を調べる
・年齢別
・性別 など

講演会の開催

小中学生にユニバーサルデザインの意味・大切さを学習

学校教育(小学校高学年)で外部講師による講座

学ぶ場の提供

ホームページやイベント等により考え方や取り組みを紹介する

いつでもUDにふれあえる施設をつくる

地域や職場において啓発活動をする

学びの場に参加しやすい工夫
・時間帯
・場所 など
(学校、公民館…)

学校や社会教育で学ぶ機会を作る

ユニバーサルデザインの具体例、好事例をホームページで発信

ユニバーサルデザインを知るために見学

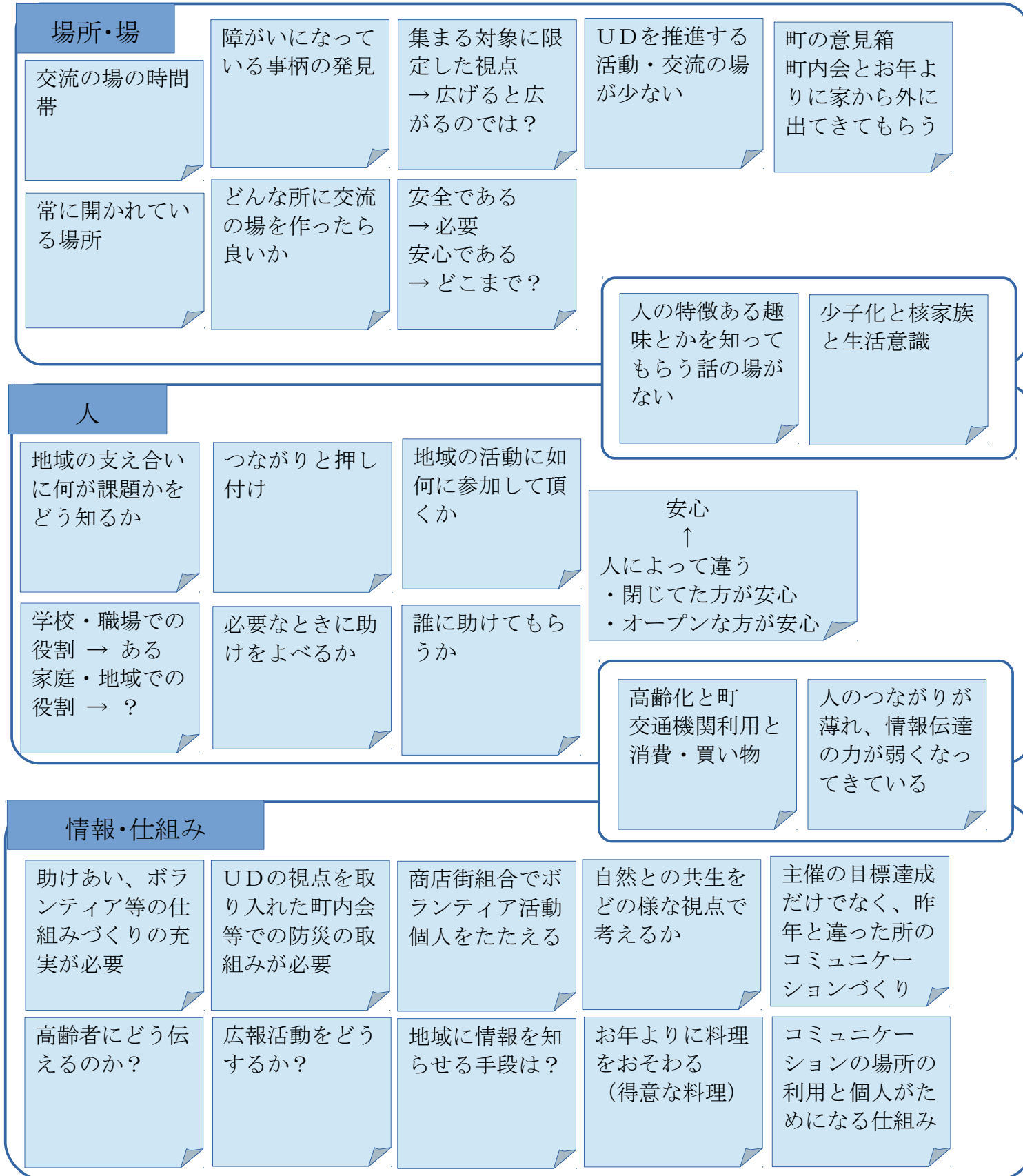
UDはどういうものか
いろいろな場面で生活の中で考える

ユニバーサルデザインを実施した現地の視察

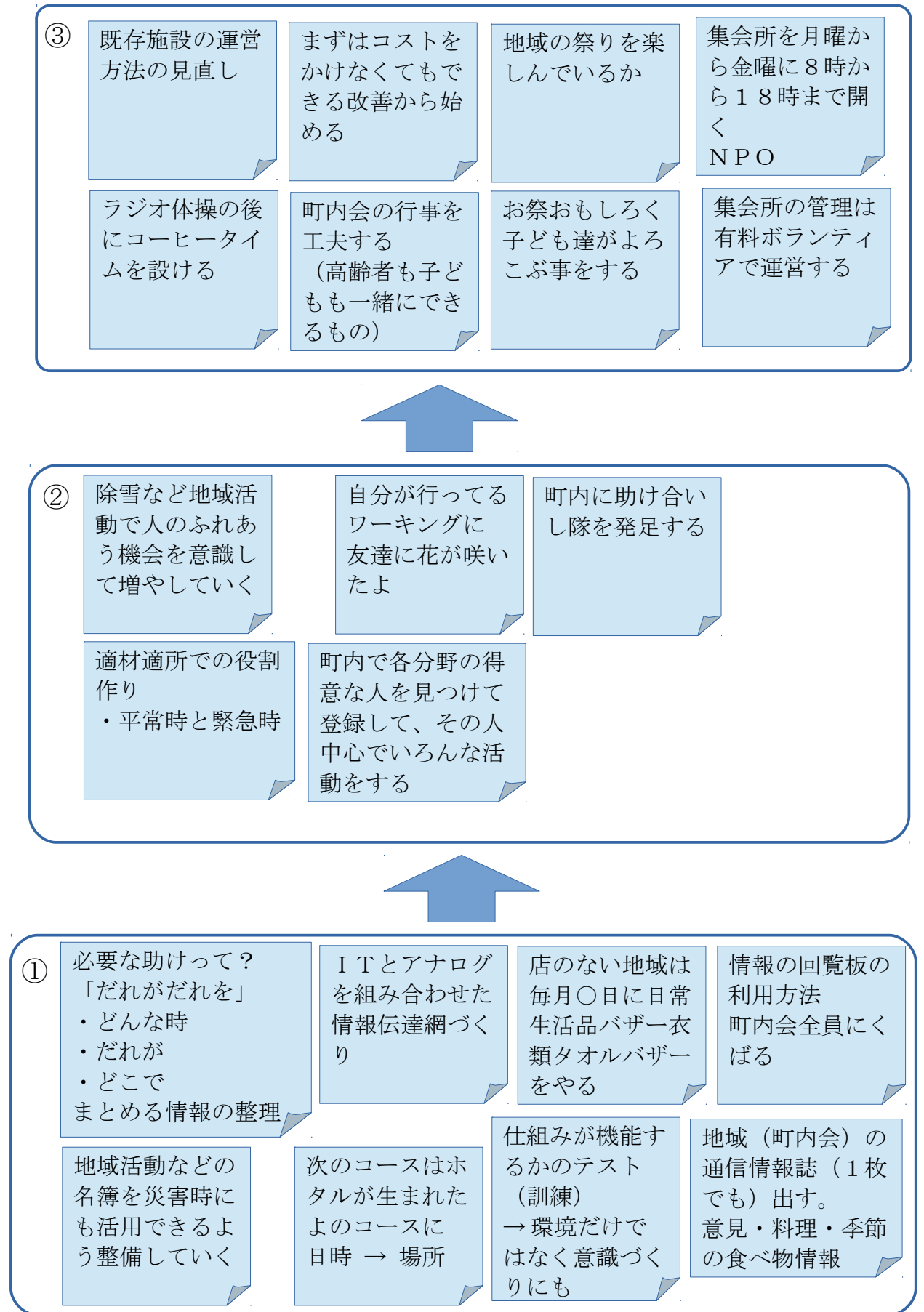
いろいろな施設にピクトグラムなど市民の目につくUDを増やす

〈Aグループ〉 「社会・環境づくり」

問題点



改善案



〈Bグループ〉 「社会・環境づくり」

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れていけばよいか難しい

問題点

家族

- 制度で家族が分断されてしまう
- 高齢者のひとり暮らし (買い物・通院の交通手段など)
- 家族が少ない
- 家族数が少ないと伝承等の学びができない
- 核家族

人と人とのつながり

- 人とのつながりが希薄になっている
- 地域のつながりが (町内会とか) 希薄
- 地域の人と交流する機会が少ない
- 個人主義が強く、つながりがもちにくい
- 市民が地域で仲間作りが出来ない
- 市民や地区など交流する場が少ない
- 町内会、組等の活性化
- 個人の自由という考えと対立してしまう
- 縦のつながり (世代間だけでなく) で学ぶ
- 集会や意見交換会など
- 地域の人とのコミュニケーションがなくなってきている。

交流の方法

- 人をどう集めるかが問題である
 - ・協力し合い
 - ・交流の場
 - ・様々な場に参加
- イベント関係者の方々へのUDな対応
- どんなイベントでもUD必要
- だれにでも参加できるように
 - ・託児所・通訳者
 - ・点字
 - ・盲導犬
 - ・介護犬・車イスなど
- 社会参加の方法がわからない
- 楽しく安心して
 - ・交流・学校
 - ・イベント・仕事
 - ・買い物
 - ・生活
 - ・スポーツ・文化
- 交流・対話の場の創出

場所

- だれでも気軽に使用できる場所が少ない
- 公共施設の改良
- 社会資源が少ない

改善案

町内会の活性化

- 楽しく集える町内会の運営をする
- 市で集まって良い方向へ導く
- 地域、町内のことを話し合う機会をつくる
- 昔やっていたイベントをまた復活
- 町内で話し合いをもつ
- 町内会が把握に努める、助け合う
- 高齢者の一人暮らし、障がいの方
- 交流の場 (継続的な) をつくる
- 毎年1回町内でイベント

ワーク・ライフ・バランス

- ワーク・ライフ・バランス生活中心に考えたい
- 労働時間の短縮
- 学生の日曜日の部活はなしにする

ユニバーサルデザインの学習

- ユニバーサルデザインを実施した現地の視察
- 生涯学習を公民館等で学ぶ
- 子どもに対して学校で指導する (小・中・高校生)
- ユニバーサルデザインについて学習をする

情報収集

- つなげる役割のボランティア活動の活性化を図る
- 地域で相談できる場と人を設ける
- すべての人が情報収集や交換ができる機会を増やす。(施設・サイト・集会など)
- QRコードの利活用
- デジタルサイネージの利活用

交流の場づくり

- 使用申請なども少し簡単にする
- 条件をやさしく
- どんな人でも参加できるように工夫する
- どんな人でも集まれるように準備する
- 人格・個人を尊重し社会参加がしやすいように環境づくり
- いきいきと生活できる環境づくり
- 困っている人が声を出しやすい工夫
 - ・相談窓口とか
 - ・交流の場

〈Aグループ〉 「まちづくり」

問題点

ハード

財政難の中で如何に施設等の新設や維持管理をしていくか	道幅が狭く安全さに欠ける所が見られる	様々な人が利用しやすいような公園整備がまだ足りない	自然とまちづくりの調和をどうとっていくか
地域の公園を人口、高齢により、機具から樹へ変える	古い住宅が多く高齢になったときに住み続けられない家庭がある	一人暮らし、高齢者へシェアハウスの利用を	とりあえずの”バリアフリー”になってないか
高齢者や子どもにとって使用しづらい施設がまだ多い	雪を「害」として捉えるのではなくて「益」とどうとらえていくか	企業の本質的な理解 ・点字ブロックは色も大事 → 地味な色味は作らない	条例はあるが説明が足りない 不便を取り除くのではなく”だれもが使いやすい”
まちづくりの優先順位をつける視点は？	様々な人が利用しやすい公衆トイレが少ない		

ハードに頼りすぎでは？

ソフト

意識の整理する事から考えて ① 社会意識 ② 生活意識 にわけて町づくり	① 町内会の活動内容は？	過疎地には自家用タクシーまたはコンビニ配送で	ゴミのポイ捨てが多いため見た目も安全性にも悪い
今までの社会が変わった事を知る。町づくりは新しい時代に入ったので共有して情報を知る伝達方法を実行する	② 町内会の運営は？活動は	配達者は必ず「近況を聞きだす」工夫を取り入れる	公共交通の改善の取組みが知られていないことが利用増につながらない
	③ 町内会の区長会の情報は開示されていますか		
	④ 町内会の活動に参加されていますか		

改善案

「まちづくり」とは何ぞや
↓
市民誰もが豊かに幸せに暮らせる様にする
(ソフト・ハード)

まち作りは誰がするのか
↓
まちづくりは行政目線
市民目線で **協働** で行なう

他の地域から住みたいと思えるまちづくり
(ソフト・ハード)

ハード

企業の理解 ・ 建材 ・ 交通機関 ・ その他ものづくり	関係業界の理解 ・ 建築 ・ 土木	担当者の理解 ・ 条例や指針の本質	本当にみんなが使いやすいの？ → 情報収集と分析
車いす使用者も入れる温泉・入浴施設 観光交流の場にもなる	まちなか「トイレどうぞ」協力者への補助金でトイレ増になる	シティバスをデマンド方式の停で止まってほしい区間作り	景観に配慮しつつ、案内表示を増やす
高齢になっても住みやすい住宅 建設知識の普及 業者と個人	市内の交通ネットワークを一つにデザインする	情報伝達のための掲示板を増やす	

ソフト

マナー改善の啓発活動	地元製品にUDが取り入れられていることの紹介	バリアフリーデザインでの活性化	地元企業のUD取組みのPRの機会をつくる
雪時に簡易スパイク持参する 雨傘式予報	町内会等で除雪等の助け合いの仕組みづくりを推進する除雪チーム結成の支援等	UD森林公園 一見相いれないものをつくる	言語の説明 解釈不足
資料の収集 ① 国民生活白書 ② 統計の資料 ③ 人口統計表 ④ 趣味の分類 資料の共有化はかる	生活の利便性とアイディア生活をめざす為の進行方法	個人と社会性の分類の明りょう化 売り手・買い手・作り手の美意識	インクルージングデザイン（包括的なデザイン） ↓ ユニバーサルデザインになった (万人共通で全方位型に開発したもの)

〈Bグループ〉「まちづくり」

似たような街・町
ができてしまう
魅力、特徴がない

問題点

コスト

- 「やさしいまちづくり条例」のハードルが高い
- どの段階でUDか 例：歩道 すべてUDは難しいのでは
- お金がかかると (ハード整備)
- 時間がかかる 整備されるまで
- どこまで良くすればよいのかの加減が難しい
- ユニバーサルデザインのための資金が必要 (財源の確保)

公共施設

- 市役所が古くて不便
- 疲れたとき休む場が欲しい
- トイレはウォシュレットにしてね
- 公共施設をどの様に利用するか (遠い、使用に不便)
- バス停に屋根やベンチがあると良い (ご老人、障がい)
- 男子トイレに赤ちゃん用のイス (待ってる時間使用) おむつ交換のベット少ない

公園

- 公園ベンチが壊れている
- ・木製
- ・コンクリート製
- 汚い

道路

- 道路車中心なので人間中心につくってほしい
- 「やさしいまちづくり条例」のハードルが高い
- 雪
- ・買い物不便
- ・片付けられない (ご老人)

公共交通

- 電車狭い (内装が悪い)
- 利用者が少なく、廃止する路線バスなど多い 交通手段の減少
- 車での生活が中心 公共交通利用増えない

改善案

① 予算化

- 公的予算化
- 整備のための助成金を設ける
- ユニバーサルデザインの必要性を伝え予算をあてる
- 優先順位をわかりやすく示す (整備の)

② バリアフリー

- まずはバリアフリー → 新施設であればUD
- 設ければいいだろうというバリアフリーやUDはどうかと思う

③ 思いやり

- 思いやり、助け合いの心を大切にする (ボランティア)
- 金がなければ人の助け合い
- 生活にゆとりが大事
- 車の運転は心に余裕を持って
- ユニバーサルデザインの教育環境を整える
- ユニバーサルデザインの成果・効果の報告

施設整備ハード面

- 市役所の建替え
- 新しい施設はなるべくUDにしましょう
- 男子トイレにも赤ちゃん子連れの方に使いやすくする
- ・イスやベットの配置
- 使用する人の利便性を考える (公共施設)
- 観光地など人の集まる場にUDが少ないのではないか (砂利道、授乳室など)

ソフト面

- ピクトグラムを利活用してね
- 各施設ごとに支援するスタッフを配置する

道路の維持補修

- 新設より維持・補修が先だね

公園の点検整備

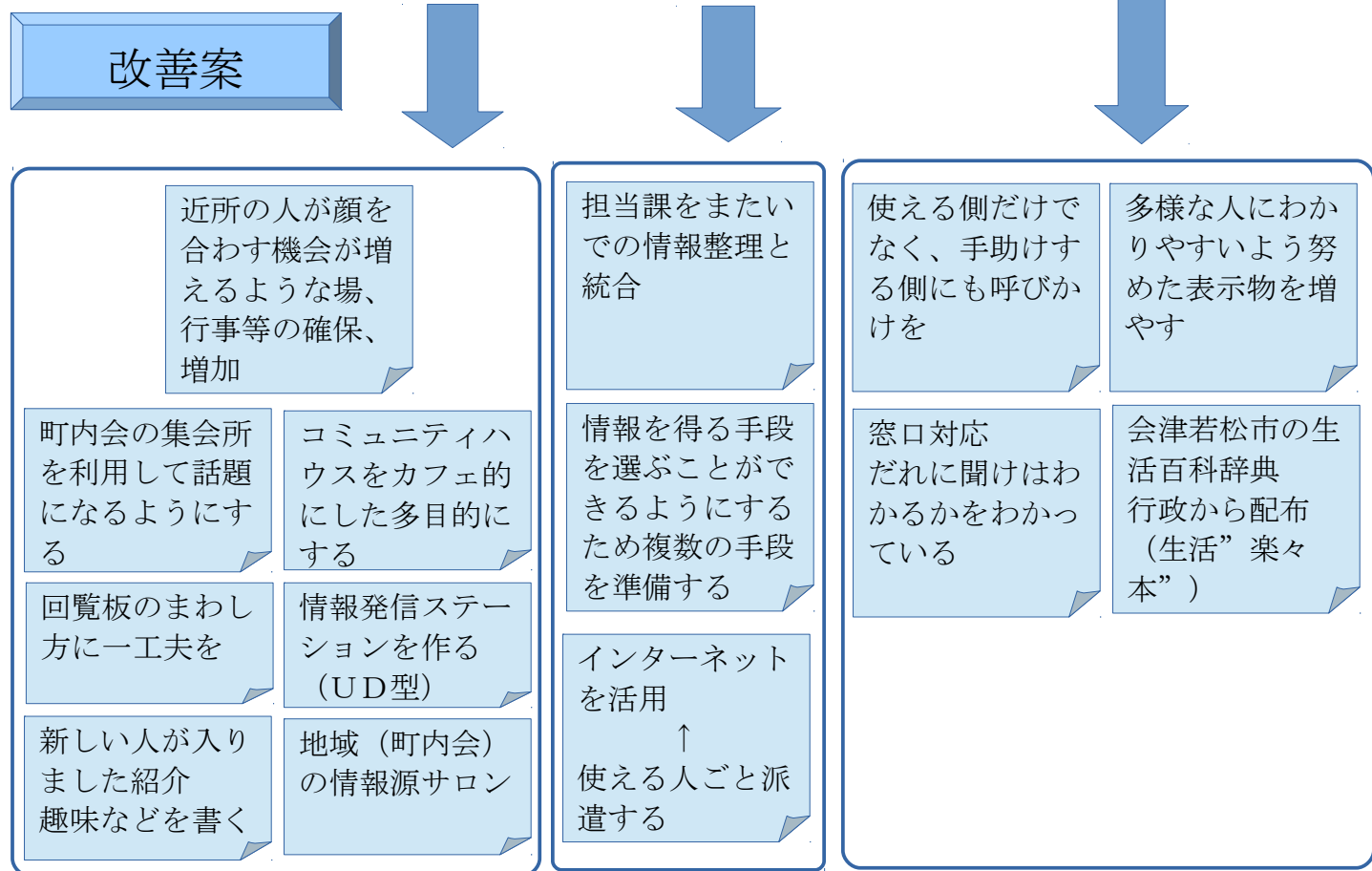
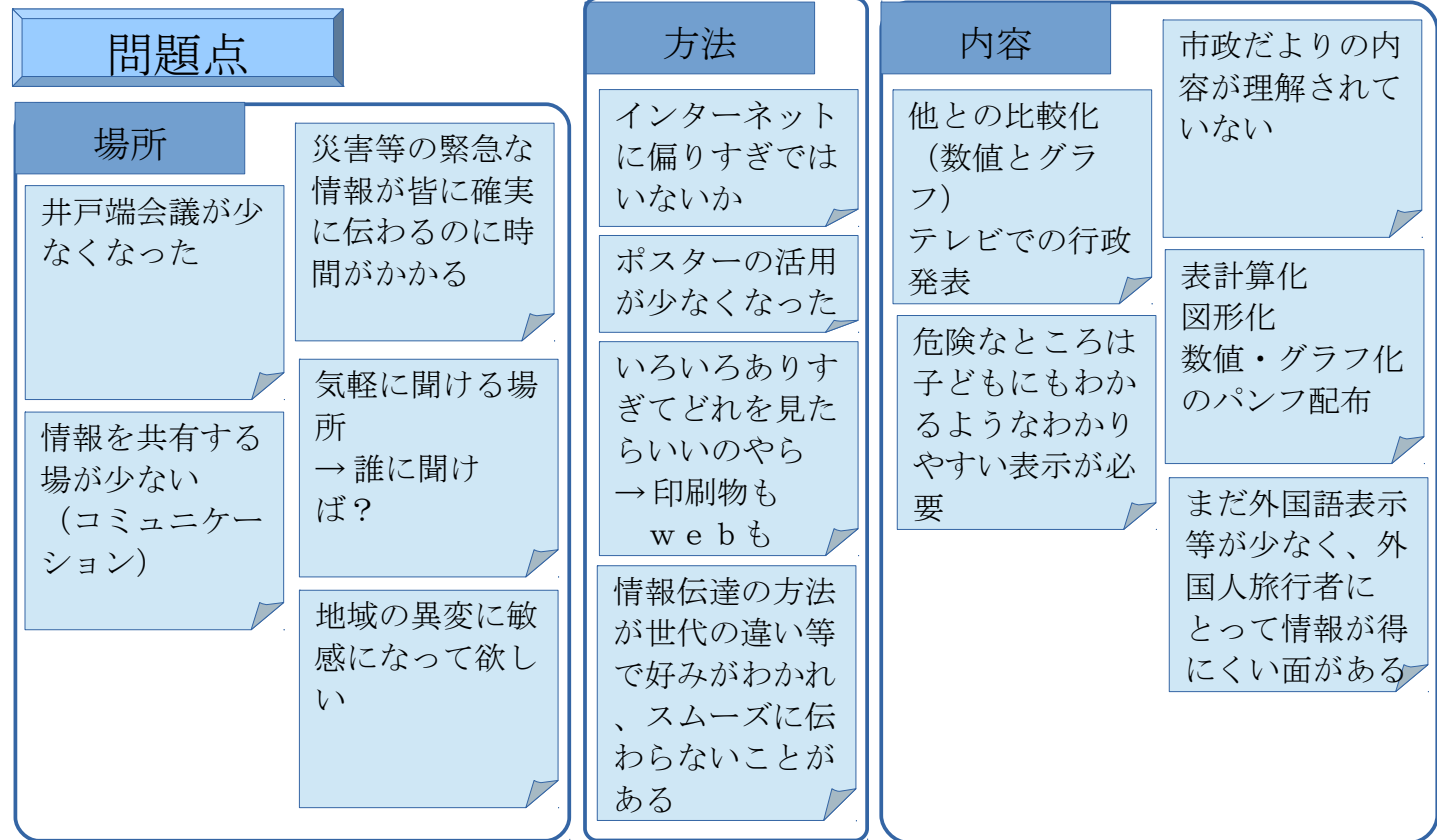
- 公園を定期的に整備することだれが、いつ?
- 公園の整備、点検
- 定期的に見回り補修や改善点の把握をし、すぐに対応できるようにする
- 公園段差はなにげなく解消されるように土地利用する必要がある
- 休める場所を増やす (ベンチを置くだけでも)

公共交通

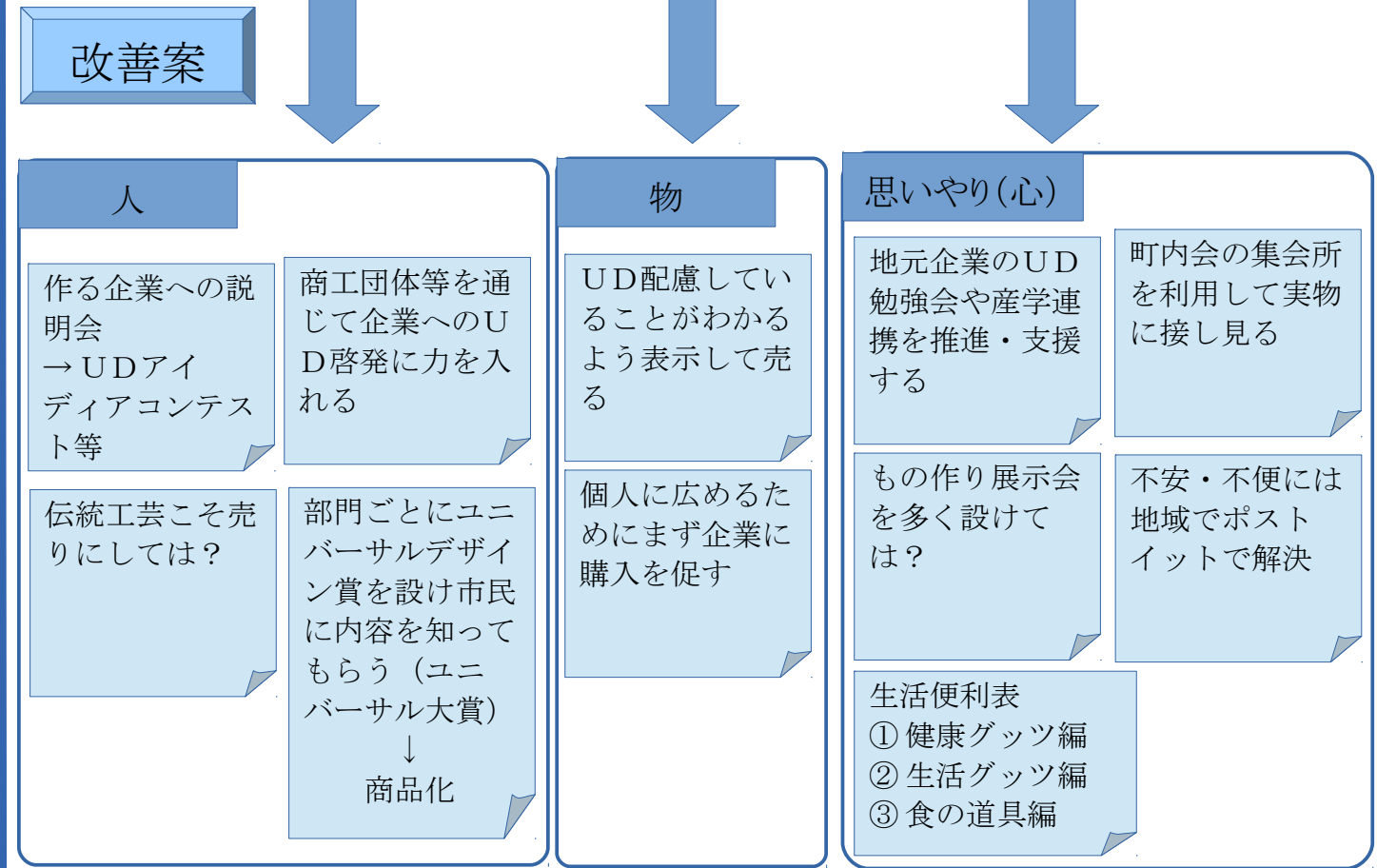
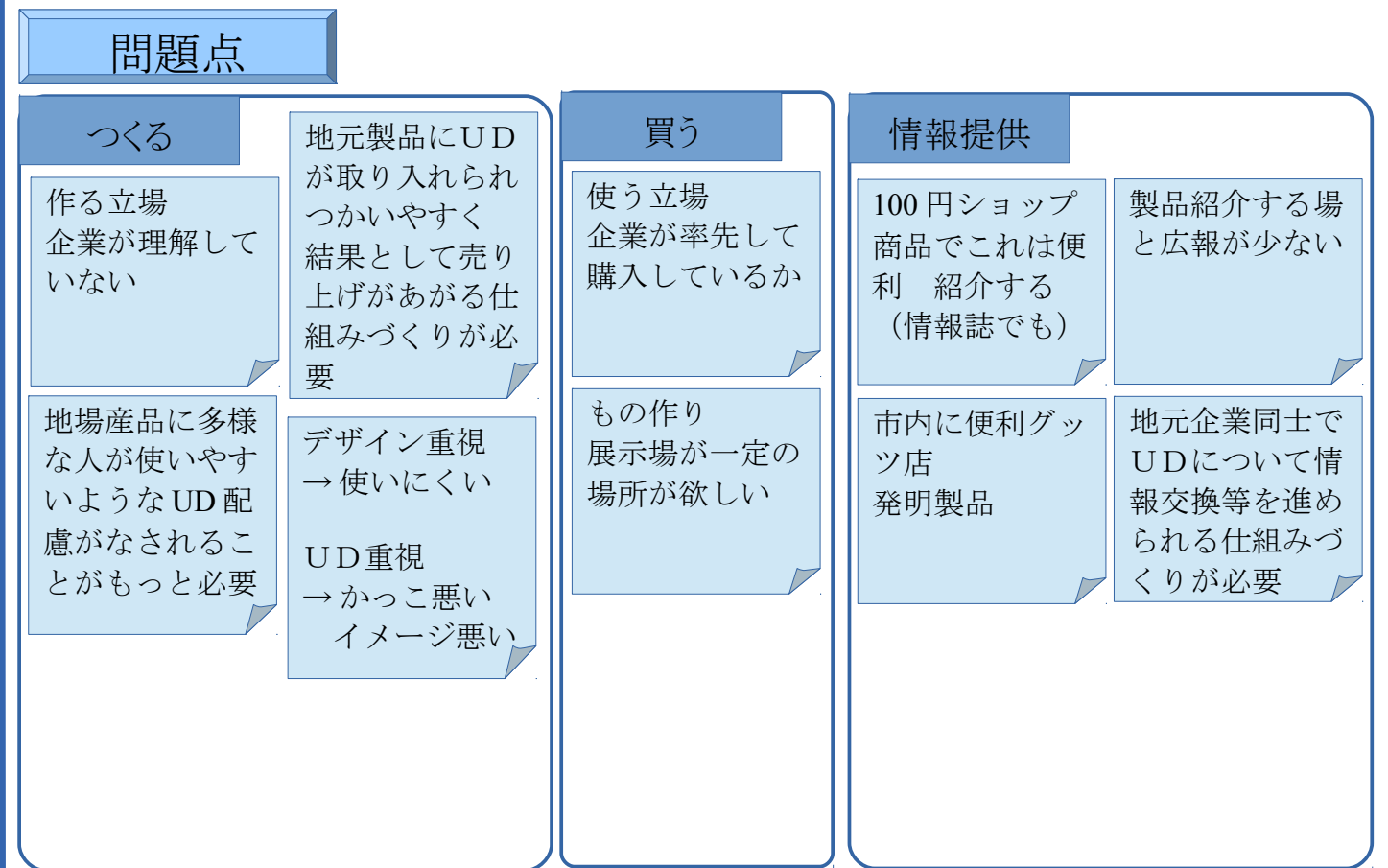
- 公共交通心のUDが大事ではないか
- 電車のいすの数を減らし、スペースを作るいすをしまえるとか

〈Aグループ〉

情報・サービスづくり



もの(製品)づくり



〈Bグループ〉
情報・サービスづくり

問題点

情報の伝達

必要としているサービスを把握することができず受けられない

コミュニケーションでの情報伝達が衰退

利用者が求めている情報をどう吸い上げるか

地域の情報をどうやって共有するか

情報の整理

多くの情報の中から求める情報を確実に得られるようにする

情報があふれているのでどれが正しいか疑問

情報の伝達を確実にするには

情報が多く、欲しい情報がわかりづらい

多くの資料を一度に提示しても見ない

わかりやすい情報の提供がされていない

すべての人に

すべての人が必要な情報を必要ときに入手できるようにする

市役所など外国の方への通訳は十分?

サービス外国人がどんなところで不便さを感じているかはっきりわかっていない

障がいのある人へサービスが提供されない。(理解・認識)

情報を入手することができない

インターネット

インターネットができない人への対応

行政のサービスインターネットからされているがインターネットが無いので、できない

改善案

インターネットに偏らない人と人とのコミュニケーションで情報を得る機会

困っている人の声を聞く機会をつくる

伝達の日数を増やす

地域の人と話し合う場

町内会に組単位で伝言板等があれば

すべての人が見やすい情報の提供をする

デジタルサイネージの活用

適切な情報を得るようにする

QRコードの活用

情報を得る場を作る(提供する)

ホームページRSSによる情報の配信

インターネットやメールで多くの人へ情報を提供できる

放送のUD(字幕)

音声認識
音声合成

ラジオで情報の提供をする

インターネットの学習会をする

誰でもどんな時でも使えるITにする

詳細はインターネットでも題目くらいは紙面で公開

情報のUD
情報入手のための支援

I o Tの発達

もの(製品)づくり

問題点

使いにくさを知る

普段使っている品物の不便さ

どうしたらよくなるか?

商品知らない

UDと認められている商品の認識一般商品との違い

情報が少ない

いろいろそろえ使える場所があるといい

ユニバーサルデザインの商品知らない(UDの理解不足)

ユニバーサルデザイン化されている市販の商品のリスト

改善案

施設の人や民生委員の方に意見を聞く

困っている人の声を聞く機会をつくる

学習の場を提供する

いろんな方に対する想像力をやしなう
・疑似体験

UDの紹介知る機会展示

アイデア募集・コンテストなど

企業に提案する

「まちなか見学」

ワークショップの一環として、実際まちなかでユニバーサルデザインがどのように取り入れられているかを見て歩く、「まちなか見学」を行い、あわせて、「4つのどうぞ」の取組を行っている団体の方のお話を聞くことで、これまでの振り返りと、ソフト面、ハード面それぞれの現状確認をしました。

○まちなか見学順路



【まちなか見学の様子】



まちなかでいろいろな
ユニバーサルデザイン
を見つけました。



【参加者の方からの気づいたことや改善点等の意見】

○道路

- ・道路標識が電柱の後ろで見えづらくなっている所がある。
- ・音付き信号機が昔より増えている。
- ・植え込みは景観美化につながっているが、枯れている所もあるので、各町のリーダーを育成し、まちなかを巡回することでまちなみを守り、多くの人がまた来たいと思うまちにしたい。
- ・プランターや看板が通行の邪魔になっているところがある。
- ・点字ブロックが途中からなくなっている所があるので、線で繋げ整備エリアを広げていく必要がある。
- ・点字ブロックの色あせや磨耗は、管理者に対しフィードバックする必要がある。
- ・歩道まで飛び出て駐車している車がある。
- ・歩道と車道の段差はありすぎても、なさすぎても問題がある。
段差がある：車いす利用の人や目の不自由な人などには通行しにくい。
段差が無い：車の路上駐車が増える、車道と歩道の境目が分かりにくい。

○標記

- ・歴史等の説明看板にもっと外国語標記があったほうがよい。
- ・駐車場やトイレの案内表示は、来訪者にとって重要なので増やしたほうがよい。
- ・バス停の表示している情報が多すぎるので、QRコードを活用してはどうか。

○その他

- ・現状「ここまで進んでいる」「進んでいない」といったことを情報提供することで市民の関心度が高くなると、市民目線が広がると思う。
- ・各地域の課題をポスター等で地域住民と共有する仕組みづくりを行うことで問題意識を共有する。
- ・野口英世青春通りは点字ブロックが無いので、実際、車いす利用の人や目の不自由な人の通行があるかを確認する必要がある。
- ・介助犬がお店に入ってよいかの情報が必要。
- ・ユニバーサルデザインの心づかいが感じられるまちが好印象につながる。

〈Aグループ〉 「市、市民活動団体や事業所、市民それぞれに期待すること」

行政

教育(職員、子ども、市民)

- 職員全員にUDの意義とかを理解していただく
- 施設や情報についてUDの考え方を取り入れる
- 教育(小中学校)の施策充実
- 子どもの遊び場の充実(屋内)(文化教育)
- 学校教育と社会教育にUDの視点を入れ活発に行う
- アーカイブスの映画上映 ◎映画館欲しい

情報提供

- あまり注視していない
- 町内掲示板にポスターで知らせる
- こんな事例がありました次はあなたの番
- 各町内会の区長さん(500人)の研修を実施すること
- 具体的な勉強会概念だけではなく、ユニバーサルデザインの家作りなど
- 全体に呼びかけばかりだけではなく、ターゲットをしぼって情報発信
- 「市政だより」で市民全員より建築業者にしぼってUD建設の説明など

環境整備

- 条例申請手続きこそユニバーサルデザインに
- 市民活動の時の保険等、公的な環境整備の支援
- UDの意識向上になるよう、シンボルとなり効果が広がるような事業を行う(行政・企業)
- 市民活動のうち一定の個人情報管理を市が担当し参加者の安心参加しやすさにつなげる

観光

- 会津若松市の空中から見た工作模型を各市民集合所に置く
- 会津若松市美術館各文化・絵画・古美術(掛け軸等)
- 観光資源のレベルアップ
- もっとサービス丁寧なおもてなしの考え方充実
- UD使われてない
- 考えてない
- 行動起こしてない(重点的に表示する)

制度

災害時要援護者の名簿や対応方法での自治会と市の役割分担によりいつでも円滑に動けるよう体制を準備する

観光客の目線で

対象者を具体的に

企業・団体・自治会

教育(社員、構成員)

- 社員教育の充実
- 会社内でUDの考え方を理解して広めてもらう
- リーダーの育成
- 利用者の立場としても積極的な取り組みを
- ・社屋のUD他
- ・備品としてUD商品の購入

社会貢献

- 事業所は本業を通じた社会貢献や働きやすい職場づくりを進める
- 事業活動の中で積極的にUDの考え方を取り入れる
- 商店街の活性化企画で消費生活の充実感を知らしめる情報を
- 例：電気屋さんだったらLED電球の種類と消費電力が少ないのでお金が節約されるよ

事業を通じた社会貢献

- 市と市民の間に入ってUDの理解と普及活動
- 市に対してUD型のサービスの提案
- 意見を集約する場として機能してほしい
- 各町内会の区長さんからの情報開示

行政と個人をつなぐ

個人

気づく

- 差別のない社会づくりや困っている人に手をさしのべる仕組みづくり
- ”あともう少し”の不便をおぎなう手助けを
- 家から一步外へ
- もの数字になりにくい
- ・ものづくりの成果をきちんと出す
- ・動画などで発信する

集う

- 常に開いている町内会館
- 人口の移動にあった公園づくり
- ・高齢者の多い地域ではベンチを増やす
- 市民生活の充実
- 衣・食・住のアイデア大会
- コミュニケーション
- コーヒーサロン
- 空間づくり
- 食文化と体力育成

行動する

- 自分でUD的におもしろいと思うことをはじめる
- そしてまわりの人をまきこみ広める
- すべて行政や企業に求めるのではなく、自分たちで解決できないか
- 自ら学び、社会に貢献する主体として意識とスキルを高める努力を行う
- 他者にもっと関心を持ち、思いやりの行動を心がける
- 日常生活の中でUDに必要な箇所の提案

積極的に

なんでもポストイットで解決地域で顔を知られて安心感で共助が得られる

〈Bグループ〉 「市、市民活動団体や事業所、市民それぞれに期待すること」

UDを広めるには
 安全・安心
 楽しい
 やさしい
 ・子ども
 ・育児
 ・高齢者
 ・病気
 ・障がい

市

- UD認知度の調査と現状のお知らせ
- UDに取り組む企業の紹介
- 無人の駐在所や派出所をなくす
- 広報
市政だよりに掲載
言葉だけでなく意味を伝えていく
- UDの広報
市政だよりの利用
・団体
・企業
- 協働とはいえボランティアに頼りすぎない
- UDについての啓発
・市政だより
・勉強会
・学校（小・中・高）
- 庁舎の建て替え

市民活動団体や事業所

- まちづくりへの提案
- バス停にベンチを増やす（座れるところ）
- 市内のUDを見つけるイベント（企画）を開催する
見つけた数の多い人へUDグッズをプレゼントなど
企業の協賛を得て
- 職場でのコミュニケーションをとる
- 4つのどうぞを取り入れていく
- 店の入口の前などにイスなど休憩所を設置する
- 地元の方の採用を増やす
- 子育て年代の人が安定した職業につけること

市民

- 学ぶ姿勢
- 町内会の活性化
- 思いやりをもつ
・子どもに対して
・外国の方に対して
・障がいのある方に対して
・高齢者に対して
- 人に頼る勇氣
- 批判ではなく現実的な提案
- 地域のつながりの大切さを知る
コミュニケーションをもつよう心がける
- 困っている人に自ら声をかける
- 道路に面した家（店）の前の照明を消さない
- それぞれが自ら進んで歩み寄る機会をつくる
- 困っている人も声を出す
- あきらめない継続的な要望

【調査目的】

ユニバーサルデザインに関して、日ごろ感じていることや意見、提言等を伺い、今後のプラン策定の参考にしていくことを目的として実施しました。その一部を御紹介します。

なお、アンケート調査については、平成27年度、平成28年度に実施し、グラフについては、平成28年度の調査の結果になります。

○平成27年度

【実施期間】 平成27年8月3日～8月21日

【対象者数】 市政モニター 36名

【回答者数】 17名（回答率 47.2%）

○平成28年度

【実施期間】 平成28年7月25日～8月19日

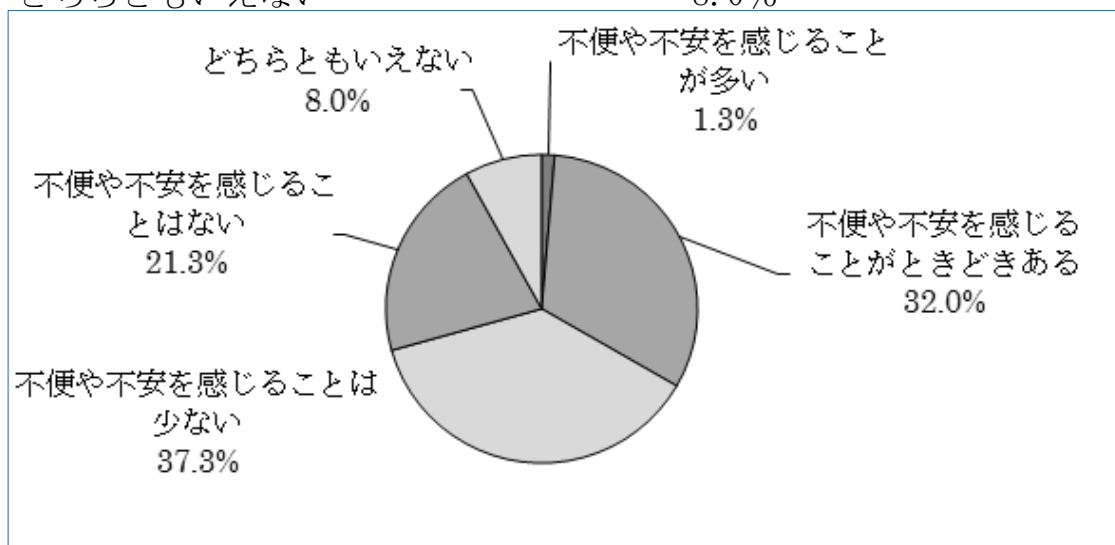
【対象者数】 市政モニター 111名

【回答者数】 75名（回答率 67.6%）

〈質問〉

あなたが日常生活や社会生活を送るうえで、ユニバーサルデザインの観点から、不便や不安などを感じていることはありますか。教えてください。

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 不便や不安を感じる事が多い | 1.3% |
| 2. 不便や不安を感じる事がときどきある | 32.0% |
| 3. 不便や不安を感じることは少ない | 37.3% |
| 4. 不便や不安を感じることはない | 21.3% |
| 5. どちらともいえない | 8.0% |



〈質問〉

具体的にどんなことで不便や不安を感じますか。

〈回答〉

【全般】

- ・高齢化の情勢に対応できない

【社会環境】

- ・隣り近所の人と人との希薄に感じられて、路上の隣りの雪が邪魔でも迂回して、関知しないで生活者が多い。

【道路】

- ・歩道と道路の段差が場所によって違うので、つまずきそうになったり、側溝の穴も気になる。自転車で外出すると安全性に不安を感じる。
- ・歩道が狭く傾斜があって歩きづらい。
- ・家の前の市道が除雪されていないので将来不安。
- ・運転マナーが悪い人が多くなったようで歩行者が危ないと思う。

【情報】

- ・説明文の文字が小さい、分かりにくい言葉で書いてある。
- ・ローマ字やカタカナ文字が多くなり、情報等がよく理解できなくなってくる不安。
- ・情報を得るための手段がパソコンやスマホなどによるものが多く、アナログなものをたよって生活している者は不安。
- ・専門が高度細分化されすぎていて総合性をもった視点が弱くなり、相談等受けにくい場合も多くなってくると思った。（医療、福祉：病院）

【施設】

- ・駐車場がなく店の利用ができない時がある。
- ・基本的に階段でエレベーターやエスカレーターが設置されておらず、障がいのある人や高齢者には不便では、と感じている。
- ・室内のちょっとした段差やお店のトイレの広さ、ウォシュレットがあるかどうか。
- ・公共の施設で、階段の段差が大きいところや手すりが掴みづらいところがある。
- ・飲食店や会場場所で畳敷きのためいすに座れないことがある。伝統を守ることは大事だが、正座できない人も排除されないようにしたい。

【観光】

- ・観光の場所に車イスの用意があるとよいと思う。
- ・上町方面にも観光地なみの案内表示・交通表示を設置されたい。

〈質問〉

会津若松市の中で、5年前と比べてユニバーサルデザインが進んだと思うところを具体的に教えてください。

〈回答〉

【社会環境】

- ・障がいのある人が働いているところが増えた。
- ・市役所を利用した際、職員のあいさつができていますし積極的に声かけして何か困っていないか尋ねてくるようになったと感じる。登校時間帯の横断歩道を手助けするボランティアをあちこちで見られ、定着しているように感じる。

【道路】

- ・道路や公園が整備されている。
- ・道路は整備の途中であると思うが少しずつ改善されているように感じる。
- ・交差点の信号機も徐々に雪が積もりにくい形状のものになってきた。
- ・信号の色が見やすくなった。
- ・国道の門田付近の電柱が地下に入り歩道が広くなり融雪歩道になり歩きやすくなった、道路標識が見やすくなった。
- ・市役所の周辺については、点字ブロックがきちんと整備されている。
- ・電線の埋設化。
- ・自転車道ができて一部分だが乗りやすくなった。

【公共交通】

- ・駅のホームを移動する時、階段を使わなくても平行移動できるようになったこと。
- ・まちなか周遊バスの2台運行など利便性が高くなった。
- ・新しいバスはステップが低くなり小学生や高齢者にも乗りやすい。

【情報】

- ・広報紙が非常に充実していて、見ていてとても楽しい。（特に育児や健康情報）
- ・目に見えて感じにくいのですが、各分野の情報については伝わりやすくなったと感じます。特に震災があつてから防災に関する情報は拡散しやすくなってきたと感じる。
- ・小学生の子供がいるので、「あいづっこ web」で確認できる。
- ・市の情報が以前より、ホームページから探しやすくなってきたと思う。
- ・ホームページを見るとユニバーサルデザインのことが詳しく載っていて分かりやすかった。
- ・防災についてところどころに区域の地図があり、そこに災害があつた時の避難場所がとても分かりやすく書いてあるのがとても良いと思います。

- ・市民を守るための情報（特に子どもや高齢者）が頻繁に出されている。
- ・案内板に日本語と英語表記が書かれている。
- ・公共施設など分かりやすく提示されてきていて、以前より不便を感じなくなった。
- ・公共施設内でトイレなどの施設の場所の表示など

【施設】

- ・駐車場等が分かりやすい絵や色づかいになった。
- ・公共施設などについては、高齢社会に応じた対応が出来ていると感じている。
- ・公共施設等、案内板やスロープ設置され、誰もが利用しやすくなった。
- ・公共施設の歩道部分や公共便所等、新しい施設には取り入れられていると感じる。
- ・大型商業施設のバリアフリー化、スロープが増えていること。
- ・トイレについては、車いす利用の方や子ども、オストメイト向けの公衆トイレの設置など使いやすくなっていると思う。
- ・新しく作られた施設（稽古堂、鶴ヶ城周辺、新道路など）、アーケードの取り外し等、何かを始める際に、従来通りのやり方にとどまるのではなく、時代に合わせて市民の使いやすさ等の配慮が伺える。

【観光】

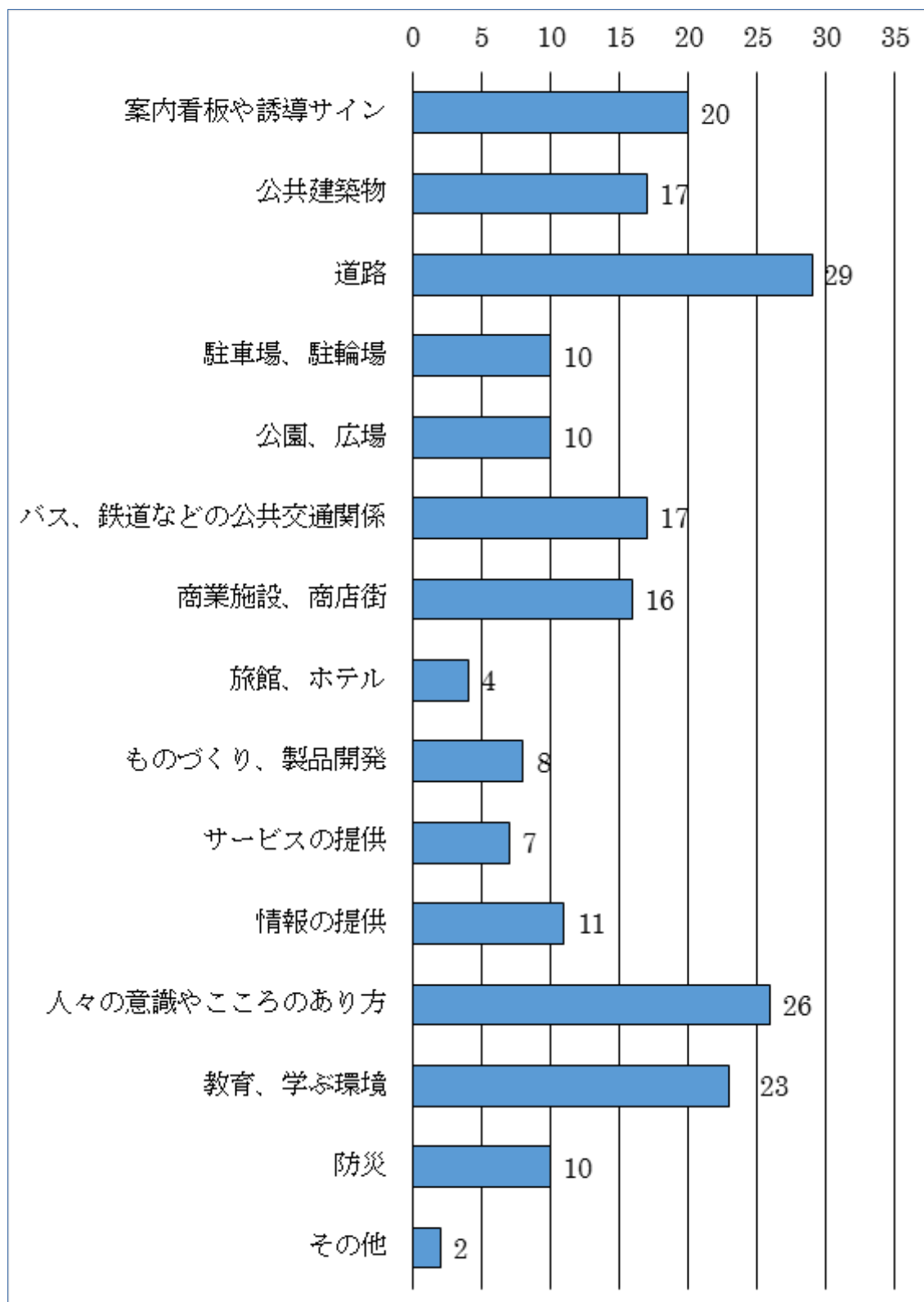
- ・お城の東側のトイレが本当に使いやすくいつも清潔。

【サービス】

- ・商業施設にサービス介助士などの配置での買い物の手伝い。
- ・市役所での手続きが分かりやすく説明してくれるようになってきている。
- ・コンビニでの公共料金の支払いや必要書類の取得、休日開庁が以前より増えた気がする。
- ・市役所内で管轄外の事でも調べてくれる。
- ・スーパーの店員さんの客に対するサービスは良くなっている。
- ・コンビニでのサービスが可能になり、24時間対応できるようになった。

〈質問〉

あなたが、ユニバーサルデザインの考え方を導入していくことが必要だと考えるのはどれですか。（回答は3つまで）



〈質問〉

具体的にはどのようにユニバーサルデザインの考え方を導入していく必要があると考えますか。また、何をどのように工夫したり改善したりするとよくなると思いますか。

〈回答〉

【案内表示】

- ・案内看板、誘導サイン。
- ・点字、音声案内などの設置。（駅だけではなく、観光地にも）
- ・道路標識や路面の表示など、その場に行かないと分かりにくいものがあるので、大きなイラストにして、誰でも判断できるようにしてほしい。
- ・パッとみて誰でも理解できる表示が良いと思う。また、その表示が何であるのか認知するまで説明等が必要だと思う。
- ・外国人観光客のため、誰にでも分かる案内板表示を進める。
- ・大町通りの駅方面からの一方通行は、認知度が低い上に標識も少なく分かりにくいいため、いまだに逆走車が多い。もう少し標識（分かりやすい看板など）を増やしてほしい。
- ・消えかかっている道路案内をまず直してほしい。

【公共建築物】

- ・特に学校のトイレ、今どき和式トイレの方が多いというのが不便だし抵抗を感じるため洋式・個室化。
- ・階段が多い。
- ・バリアフリーの整備。
- ・スロープ、エレベーターの設置。
- ・導入した時には、「ユニバーサルデザイン」をもっと分かりやすく全面的にPRをすればよいのではないか。

【道路】

- ・道路に点字ブロックを設置する。
- ・道路の整備。段差がありすぎる。
- ・歩道・自転車用の道路の整備。（高校の周辺は特に）
- ・どこにでも白杖で安心して歩ける歩道の整備。
- ・神明通りの歩道で、自転車で通る人が歩行者にとって危ないので、自転車用の道路を設ける。
- ・雪が降った際に車道だけでなく歩道もしっかり除雪する。もしくは除雪が自動的にされる仕組みを取り入れる。
- ・市内は自動車社会になっており、歩行者等にやさしくなるように整備する。
- ・市内の主要道路での電線の地中化をもっと早く実施してほしい。
- ・街灯を増やしてほしい。

- ・道路に関しては、溝の大きな蓋より溝の小さな方が、タイヤがはまったり小物など落ちにくいのではと思う。
- ・雪国のためか道路の傷みの激しいところが多く見られるのでこまめに整備してほしい。市民からの要望だけでなく行政も積極的に自ら取り組んでほしい。

【駐車場・駐輪場】

- ・優先駐車場には屋根があったら良い。
- ・利用しづらい。年配でも車利用での移動も多いため、共通の大きく分かりやすいマークなどが必要。
- ・大町、七日町通りの買い物する時、駐車場が少なく困っている。
- ・神明通りに無料の駐車場がほしい。

【公園】

- ・公園で車いす使用の際、階段ではなくスロープが設置されている箇所の案内標識を設置する。
- ・公園はトイレにオムツ交換台がついていること。子ども用トイレがあると良い。
- ・公園や広場が誰もが楽しくくつろげる場所であること。
- ・子どもがのびのびと遊べる運動ができる公園や広場をもっと増やしてほしい。
- ・門田の運動公園はとても良い施設です。しかし落雷のときなどにどのように避難したらよいか分かりません。子どもだけで遊んでいても避難できるように「分かりやすい」誘導の看板がほしい。

【公共交通】

- ・バスでは段差を極力なくし、電車は隙間をなくす。
- ・公共交通の時刻表などの配布。イベント時には増便。
- ・バスの通っているコースを分かりやすく示してほしい。
- ・バス、タクシー料金等、サービスがあることを通年にわたって知らせると良いと思う。
- ・お年寄りが病院やお買い物に行くための手軽に乗れるバスがあるといいと思う。
- ・公共交通機関の充実。

【商業施設・商店街】

- ・神明通りの各店舗の取組方が重要だと感じる。それぞれの世代に合った店舗の内容をもう少し考えるべきだと思う。
- ・子ども連れでも入れるレストランなど気軽に立ち寄れることが分かるデザイン。
- ・子ども連れが楽しめて休める商店街。

- ・ウォーキングや買い物をした時など腰をおろし、ゆったりと休憩できるような場所が今後高齢社会に必要と思う。
- ・商業施設のほとんどが郊外にあり不便を感じる場合があるので、住宅地近くの商店街の活性化が必要。

【旅館・ホテル】

- ・旅館・ホテルで車いす可というところが少ない。

【ものづくり】

- ・子どもにも分かりやすいデザインにして、みんなが安全・安心して利用できるようにする。
- ・良い物を日常の生活でも使えるようにして市民の意識を高めていく。会津漆器の汁椀を市民一人ひとりが大切に使える社会
- ・ユニバーサルデザイン製品は、使う人には分かっているが他の人には分かりづらい（あるいは分かりにくい）点がある。稽古堂の一角のスペースなどで、商品の提示と作った物の意図の説明のボード等をおいて市民の理解を得るのはどうか。
- ・ユニバーサルデザインによって製品開発したもの（会津塗りなど）の紹介。

【情報】

- ・情報が伝わっていない現状。
- ・ユニバーサルデザインに関する窓口をおき、そこを周知することに力を注げば情報提供等の希望があるとき分かりやすいと思う。
- ・市民に安全安心を与えるため、ユニバーサルデザインを取り入れ改善した事を情報提供してほしい。
- ・まずは、ユニバーサルデザインという言葉をより身近に感じていただくために、積極的な日本語の意味付けや情報提供をしていくことが第一歩だと思う。むしろ、「ここはユニバーサルデザインを使用しています」と標識があってもいいと思う。
- ・子どもにも分かりやすい冊子などを作り、市民みんなが理解できるようにしてほしい。
- ・市政だよりなどで視覚的に広報する。
- ・QRコード、デジタルサイネージの利用。
- ・情報が誰にでも分かりやすいように紙面での掲載をしてほしい。
- ・ネット検索のように、キーワードを入れると該当項目がもっと詳しく表示されるようなホームページ。
- ・医療マップ一覧のような介護サービスや福祉サービスなど誰が見ても分かりやすい一覧があると良い。
- ・除雪車の出勤時間、状況、判断等を広報等に掲載して情報を迅速に一般公開する。

【人の意識やこころのあり方】

- ・人々の意識や心のあり方が市民一人ひとりに不足している。
- ・障がいや病気を持った人にもやさしく、またそれに対して理解の深めた、広く温かな雰囲気を持った考え方が必要
- ・心の豊かさを推し進めることが重要だと考える。冬になると除雪除雪と騒ぐ人もいようだが、町内のコミュニティができていれば自分たちで解決できるはずだし、それが可能であれば除雪費用を別な使い方ができる。「ああ困った」「やれ困った」「行政なんとかしろ」の自分勝手にワガママな頭から、自分たちで解決するような思考に持っていくには、市民の意識を変えることがすべての始まりだと思う。
- ・世代の垣根なく、自分たちの暮らしにもっと関わりやすい、環境・交流をしやすいことが必要だと思う。
- ・ユニバーサルデザインへの理解、関心が高まるように、広報、啓発活動を増やして、分かりやすく伝えていくことが大事だと思う。
- ・歩道上の点字ブロックの上に障害物を置かないようにする。障がいのある児童生徒等が自立と社会参加できるように支援するなど。
- ・ユニバーサルデザインは地域のリーダーには必要である。まずリーダーが守り、行動を起こす事で地域の特色がいかされる。
- ・交流、向こう三軒両隣のおつきあいが密になる工夫が大切だと思う。

【教育・学ぶ環境】

- ・障がいの体験等を教育機関で行い、障がいがある人でも暮らしやすいデザインするにはどうすれば良いのかを討論する。
- ・思いやりの心を育む指導。
- ・小中学校の授業でも取り組んでいますが、さらにボランティア活動として、障がいのある方とふれあう機会があると良いと考える。
- ・子どもの頃からユニバーサルデザインの考え方やノーマライゼーションの考えを知る必要があると思う。
- ・地区での講習会や施設での実践講習会を開く。
- ・こころのユニバーサルデザインは保育園、幼稚園の時から高校生まで発達段階に応じて計画的に学習する場をつくる。
- ・教育機関などに現役の介護職員による講習会の開催。
- ・盲導犬や白杖を持った方に対してどのような意識で接したら良いか大人も子どもも理解できている人が少ないので、みんなが自信を持って手助けしあえるように情報や勉強の場が増えると良いと思う。
- ・手話通訳者等の養成のための講習会を開く。

【防災】

- ・防災や避難に関し不備であり市民一人ひとりに周知されていない。いざ災害が起きたらと思うとどうしたら良いか分からない。
- ・大災害時、停電でも情報収集できるようなシステム。

- ・全市で防災訓練となると大袈裟となるので各町内単位でやれば良い。
- ・会津に移り住んだばかりの人は会津の防災について知らないから講演会などをしてほしい。
- ・災害時の避難場所はHPで見ればよいが、パソコンを使えない人のために年に数回、地図などで配布を続けてほしい。
- ・災害の際、避難所で障がいのある方やその親はまわりにとっても気をつかいストレスもとても感じると思う。障がいのある方が集まれる場所をぜひつくってほしい。

【その他】

- ・観光も大事だが、デザインを入れると不便が出る。（例：赤レンガ）
- ・七日町通りは近年、観光客が増加傾向にあると感じるので、障がいのある方でも心配なく観光できる取組や外部へのPRが大切だと感じる。
- ・既存のものに頼らず会津若松市独自の考えで進めていくこと。
- ・もう少し、子どもの楽しめる場を提供して欲しい。車がなければ身動きが取りにくい環境をどうにかして欲しい。
- ・子どもと高齢者が暮らしやすい環境が一番だと思うので身近な事（移動する、遊ぶ、買い物する）が充実して安全だと良いと思う。

〈質問〉

ユニバーサルデザインやバリアフリーの観点から、あなたは会津若松市がどんなまちであってほしいと思いますか。ご意見をお聞かせください。

〈回答〉

【意識】

- ・ハードが整っていくことも大切だが、市民の意識が変わり、ためらうことなく手を差し伸べることができる人があふれる会津若松市になってほしい。そうするには、小さい頃から教育現場などで伝えていく方法も大切。
- ・サムライシティとして、人情味あふれる心豊かなまちであってほしい。
- ・温かみのあるまちであってほしい。
- ・全ての年代の人が暮らしやすいまちづくりを市民みんなが意識して生活していけたらと思う。
- ・安心・安全、誰にでも差別することなくやさしいまちになってほしい。障がいのある方が住みやすい、働くことができる環境をつくっていくことが大事だと思う。
- ・弱者（老人や子ども・妊婦）を助ける事が当たり前な社会をつくる。
- ・性別、年齢、人種を越えて分かり合える、みんなが平等のまち。
- ・困っている人がいたら進んで手を差し伸べることができるまち。
- ・まずは気軽に明るく地域で出会う人にあいさつができることが大切であると思う。このことが日常的にできるようになれば困っている人や迷っている人がいたら声をかけたり、手を差し伸べられるようになるのではないだろうか。そして、差別やいじめなども減っていくようにも考える。
- ・市民一人ひとりが豊かな心、思いやりの心を持ち、温かい笑顔あふれる市になればと望みます。

【社会環境】

- ・安心してそれぞれの力を発揮してお互いに支え合えるまちになってほしいと思います。
- ・障がいがある人も、そうでない人も、小さな子どもも大人も不自由の感じることをないまちにしてほしい。
- ・障がいのある方等への理解が低いと思うので、一人ひとりが少しでも手を取り合うことができ、みんなに優しい会津若松市であってほしいと思います。
- ・市民（子ども、妊婦、障がいのある人、高齢者）誰もが安全で安心して暮らせる会津若松市。

【道路】

- ・視力障がいのある方や歩行者、自動車通勤、通学の人たちがスムーズに使えるような道路の整備がされると良いと思う。

- ・雪が降っても困らないまち（融雪道路の設置など）。

【公共交通】

- ・公共の施設をバリアフリーにすることも大切だと思いますが、その場に行くまでの交通手段や駐車場などが分かりやすく利用しやすいまちになった方が、中心部の活性化につながり家にこもりがちな人々が自分で買い物や活動し、いきいきとした生活ができるようになるのではと思います。
- ・自家用車以外の自転車、歩行者、バス等の公共交通機関にやさしいまちを望みます。

【情報】

- ・子育て真っ最中なので、そういった観点で分かりやすい、かわいいユニバーサルデザインがあるといいです。子ども向けのおもちゃがある、遊び場がある、休憩所があるなどそういう情報があると過ごしやすくなると思います。

【観光】

- ・県内でも有数の観光都市なので、先進的な取組を発信できる都市になってほしいと思う。
- ・会津若松市は観光地なので、バリアフリー化はもっと進める必要があると思う。
- ・観光客を集めるためには、デザインも必要だが、それに合ったバリアフリー、ユニバーサルデザインが入るかたちにしていく事で、より魅力的な会津若松市になると感じた。
- ・また行きたいと思える出会いと感動のあるまちであって欲しい。
- ・だれもが暮らしやすい市であり、だれもが観光に訪れたい市。
- ・観光地なので、どんな状態の方にも楽しんでもいただけるまち。赤ちゃんを抱えたお母さんも、車いすに乗っている方も、観光を満喫していただけるハードとソフトを備えたまち。
- ・会津若松は観光のまちでもあります。ソフト面のユニバーサルデザインを意欲的に行い、おもてなしの心を持つことは市の活性化につながる第一歩です。「また行きたい場所」＝会津若松になってほしいです。

【その他】

- ・古き良き、しかし細かいところにユニバーサルデザインがいきとどている市。
- ・どんな世代にも優しく、「住みやすい」と思えるまち。また観光客からは「また来たい」と思えるまちであってほしい。そのために会津の歴史や特色、風情がいかされ、若い世代の人が「ここで働き家族を築きたい」と思えたらすてきだと思う。

- ・今回のアンケートにも非常に感銘を受けたので、ご協力させていただきましたが、今後とも市民の声に耳を傾け具体的に改善、改革がユニバーサルデザインを含みながら進まれていくまちになってほしい。
- ・住む人も観光で来る人も居心地が良いまちになると良いなと思います。
- ・すべての人が安全、安心して暮らせるまちづくりをしていただき、ユニバーサルデザインを推進し目標を達成してほしい。そして福祉が充実したまちであってほしいと思います。
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーを積極的に取り入れたまちづくりを推進してほしい。

アンケートにご協力いただき
ありがとうございました。

また、様々なご意見をいただき
ありがとうございました。



年次	本市	福島県	国
1994 (平成6年)			建設省（元国土交通省）他「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（ハートビル法）」の施行
1995 (平成7年)		「人にやさしいまちづくり条例」制定	
2000 (平成12年)			<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（交通バリアフリー法）」施行 第1回「バリアフリーに関する関係閣僚会議」を開催
2002 (平成14年)		「ふくしまユニバーサルデザイン推進指針」策定	
2003 (平成15年)		「ふくしまユニバーサルデザイン推進プラン」策定	「ハードビル法」の一部改正
2004 (平成16年)		「ふくしまユニバーサルデザイン推進指針」改訂	<ul style="list-style-type: none"> 参議院本会議「ユニバーサルデザイン社会の形成促進に関する決議」可決成立 バリアフリーに関する関係閣僚会議で「バリアフリー化推進要綱」決定
2005 (平成17年)		「ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針」策定	国土交通省「ユニバーサルデザイン政策大綱」策定

年次	本市	福島県	国
2006 (平成 18 年)			<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の施行 ・国連「障害者の権利に関する条約」の採択
2007 (平成 19 年)	「会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン」策定	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針」改訂 ・「ふくしま型ユニバーサルデザイン実践行動計画」策定 	「障害者の権利に関する条約」に政府が署名
2008 (平成 20 年)			<ul style="list-style-type: none"> ・「バリアフリーに関する関係閣僚会議で「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」決定 ・「バリアフリーに関する関係閣僚会議」を「バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する関係閣僚会議」に改正
2010 (平成 22 年)		「ふくしまユニバーサルデザイン推進計画」策定（指針と行動計画を統合）	
2012 (平成 24 年)	「会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン（平成 24 年度改訂版）」策定		
2013 (平成 25 年)		「ふくしまユニバーサルデザイン推進計画」改訂	
2017 (平成 29 年)	「第 3 次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン」策定		ユニバーサルデザイン 2020 行動計画

アルファベット・数字・略称

A E D (Automated External Defibrillator)

自動体外式除細動器。心臓の心室が小刻みに震えて全身に血液を送ることができない状態の際に、機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電氣的なショック（除細動）を与え、心臓の動きを戻すことを試みる医療機器です。

I C T (Information and Communication Technology)

情報通信技術。情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称です。

J - A L E R T

全国瞬時警報システム。通信衛星と市町村の同報系防災行政無線を利用し、緊急情報を住民へ瞬時に伝達するシステムです。2004年度から総務省消防庁が開発及び整備を進めています。対処に時間的余裕がない大規模な自然災害や弾道ミサイル攻撃等についての情報を、「国から住民まで直接瞬時に」伝達することができるという点が最大の特徴です。住民に早期の避難や予防措置などを促し、被害の軽減に貢献することが期待されています。

J I S X 8341-3

正式名を「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブ

コンテンツ」といいます。高齢者や障害のある人を含む全ての利用者が、使用している端末、ウェブブラウザ、支援技術などに関係なく、ウェブコンテンツを利用することができるようにすることを目的としているものです。そのためにウェブコンテンツが満たすべきアクセシビリティ（ホームページにおけるアクセシビリティ 参照）の品質基準として、レベルA、レベルAA、レベルAAAという3つのレベルの達成基準が定められています。

N P O (Non Profit Organization)

非営利組織。様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を配分することを目的としない団体の総称です。このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人を、「特定非営利活動法人」といいます。

R S S

ニュースやブログなど各種のウェブサイトの更新情報を簡単にまとめ、配信するためのいくつかの文書フォーマットの総称です。

S N S (Social Networking Service)

ソーシャル・ネットワーキング・サービス。同じ趣味や嗜好をもった利用者同士が、メールや日記によるコミュニケーションを取ることができるインターネット上で提供されるサービスです。

Wi-Fi

無線LANの規格の一つであり、パソコンやスマートフォン、家電など無線で通信する機器が相互に接続可能であることを示す名称です。

YouTube

2005年2月に設立された米ネットベンチャー「ユーチューブ」社が運営するインターネット動画共有サービスのことで、Youは「あなた」、Tubeは「テレビ（ブラウン管）」という意味です。

ア行

会津若松市第7次総合計画

市の最上位の計画であり、まちづくりビジョンの実現に向けた計画です。

あいべあ

「コミュニケーションサービスあいべあ」を参照。

イクベ

会津若松市のホームページに掲載されている会津若松市の主要な行事を網羅したカレンダーシステムです。

おもいやり駐車場

障がいのある方、要支援高齢者等、妊産婦など歩行が困難な方々の駐車スペースを確保するための制度です。

カ行

県政世論調査

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とすることを目的として、福島県が行っている調査です。

公共フリースポット

公民館などの市内公共施設に設置した無線設備を利用して、インターネットを利用できるサービスです。自己所有のノートパソコンなどを持ち込んで利用可能です。

合理的配慮

障がいのある人が、障がいのない人と平等に基本的人権を享受することができるよう、周囲の人々が一人ひとりの障がいの特性を考えて、障がいのあることで生じる不利益を解消するための適切な対応や調整を過重な負担がかからない範囲で行うことです。

声の広報議会

目の不自由な方などを対象に、カセットテープやCD、インターネットにより、市議会の活動状況を市民の皆様にお知らせする「あいづわかまつ広報議会」の内容を音声により提供するものです。

声の市政だより

目の不自由な方などを対象に、カセットテープやCD、インターネットにより、市政だよりの内容を音声で提供するものです。

コミュニケーションサービスあ いべあ

市が提供するICTを活用した地域密着型のコミュニケーションサービスです。利用登録を行うことで、市からの情報メール（防災情報メール等）の受信や、連絡網（メーリングリスト）、メールマガジンの作成を簡単に行うことができます。

コミュニティ放送

市区町村又は政令指令都市の行政区内の一部の地域（隣接地域を含む場合あり）を放送対象地域とする放送です。コミュニティFM（コミュニティエフエム）とも呼ばれます。

サ 行

災害時要配慮者

高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児、病弱者など災害時に何らかの配慮を必要とする方のことです。

指定管理者制度

公の施設の管理を地方公共団体が指定する民間事業者も含めた法人その他の団体に行わせる制度であり、管理方法の選択肢を広げるとともに、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的としています。

障害者差別解消法

正式名を「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」といいます。すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社

会の実現につなげることを目的として、平成25年6月26日に公布、平成28年4月1日に施行されました。この法律では、障がいを理由とする不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の不提供の禁止が求められています。

スマートシティ会津若松

情報通信技術や環境技術などを活用し、健康や福祉、教育、防災、エネルギー、交通、環境といった市民生活を取り巻く様々な分野の結びつきを深め、効率化・高度化していくことにより、将来に向けて、持続力と回復力のある力強い地域社会と市民の皆様が安心して快適に生活できるまちづくりを行う取組です。

固定的な性別役割分担意識

「男は仕事・女は家庭」というように、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことです。

タ 行

タブレット端末

タブレット（平板）型でキーボードは付いてなく、液晶の画面に指先をあてながら操作する「タッチパネル」が採用されています。ノートパソコンより小さく軽いため、片手で持ちながら利用できます。インターネット検索や電子メール、動画、電子書籍、ゲーム、映画鑑賞など数多くの機能が盛り込まれています。

中山間地域

都市や平地以外の山間地や、その周辺の地域等の地理的条件が悪く、農業

の生産条件が不利な地域のことです。

ツイッター

140文字以内の「ツイート」(tweet)と称される短文を投稿できる情報サービスのことです。tweetは、「鳥のさえずり」の意味で、日本では「つぶやき」と意識され定着しています。

低床バス

乗降口の床面を低くするなどにより様々な身体状況の人が乗降しやすいよう配慮されているバスのことです。特に、乗降口の階段がなく、床面の高さが地上から300～350mm程度ものが「ノンステップバス」といわれます。

デジタルサイネージ

液晶ディスプレイなどに映像を表示する装置で、看板やポスターなどを電子化したものです。音声や映像を流すことが可能で、また、時間帯によって表示内容を変化させたり、災害時に避難所や救援の情報を表示するなど、設置場所の状況に応じた情報配信が可能です。

デジタルデバイド（情報格差）

パソコンやインターネット等の情報通信技術（IT）を利用できる人とできない人との間に生じる、さまざまな機会や経済的な格差のことです。

点字ブロック

目の不自由な人が安全に歩行できるよう、道路や建築物などの床面に敷設された線状・点状突起のあるブロックのことです。

ハ行

ピクトグラム（絵文字）

言語や文化の違いなどに関わらず、知識や経験がなくても、直感的に情報を伝えることのできる分かりやすい絵や図などで表した文字・記号などの総称です。

避難行動要支援者

要配慮者（災害時要配慮者 参照）のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な方で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する方のことです。

フィ

V案内所

外国人観光客に外国語で観光案内できる案内所です。日本政府観光局（JNTO）が認定要件に基づき認定しており、本市では、会津若松駅観光案内所と鶴ヶ城観光案内所が認定を受けています。

福祉まっぷ

年齢を重ねても、障がいを持っていても、誰もが安心してまちに出かけ、快適に生活ができるよう、ひとにやさしいまちづくりを目指して、多くの方々が利用されている市内主要施設の駐車場やトイレなどの情報を掲載したものです。

不当な差別的取扱い

障がいを理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、障がいのない人には求めないような条件を付けたりすることです。

ポケットパーク

道路脇や市街地の空き地などのスペースにつくった小規模の公園・休憩所のことです。

報リテラシー」とは、インターネット等を通じて自分が必要としている情報を的確に探し出し、また、自ら情報を正しく発信する能力のことです。

ホームページにおけるアクセシビリティ

そのホームページが、高齢者や障がいのある方も含めた、誰もが情報を取得・発信できる柔軟性に富んでいて、アクセスした誰もが同様に情報を共有できる状態にあること、あるいはその度合いです。

マ 行

6つのどうぞ運動

観光客や買い物客などへのおもてなしの向上を図るため、サービスを表示したステッカーを商店街などに張ってもらい協力を得る運動です。サービスには、「いすをどうぞ」「お茶をどうぞ」「トイレをどうぞ」「お荷物をどうぞ」「（急な雨に）傘をどうぞ」「（急病などの困りごとに）かけ込みどうぞ」の6つがあります。

メールマガジン

発信者が定期的にメールで情報を流し、読みたい人が購読するようなメールの配信の一形態です。

ラ 行

リテラシー

文章を読んで理解し、また書き出して伝える能力のことです。転じて「情